



「いじめの矢」～ある学年集会で話したこと～

先週、本校のある学年で、ある子に対する悪質な嫌がらせ行為があったことが分かりました。翌日の朝一番に当該学年の子どもたちを集めて、私から次の話をしました。

「いじめの矢」という話をします。

校長先生が、これから、いろいろないじめの矢をこの心(りんご)に刺します。

① 「暴力の矢」

友達を叩いたり、蹴ったりすることはいじめです。

② 「命令の矢」

友達に“○○しろ”と命令して、友達が持っている物を“ちょうだい”と強く言ったり“お菓子をおごつて”などと要求したりすることもいじめです。

③ 「暴言の矢」

友達に“弱虫”“きもい(気持ち悪い)”、“死ね”などの悪口を言うこと、言葉の暴力もいじめです。

④ 「無視と仲間外しの矢」

“○○ちゃんと話すのやめよう”、“一人ぼっちにさせる”無視や仲間外しもいじめです。

⑤ 「嫌がらせとからかいの矢」

友達の物を隠す、友達の物を壊す、汚すなどの「嫌がらせ」もいじめです。人と違うことをバカにしたり、話し方や動きを真似したりする「からかい」もいじめです。

⑥ 「ネットいじめの矢」

スマホで友達の悪口を書いて広げたり、LINE はずしをしたりすることもいじめです。

いじめられた人の心は、このようにたくさんの「いじめの矢」が刺さっています。

このような心を持った人は、これからどうなるでしょう？

心が壊れて学校に行けなくなったり、家から出られなくなったりするかもしれません。

生きていくのが嫌になったと、自ら命を絶つ人もいるかもしれません。

このように、いじめの矢が刺さっている友達が周りにいませんか？

もしいたら、このままにしておいていいですか？ 心が壊れてしまう前にいじめの矢を抜かないといけません。でも、いじめの矢は、いじめられている本人が抜くことは難しいのです。

では、どうしたらいじめの矢を抜くことができると思いますか？ それは周りの人の行動です。

- 「一人じゃないよ」「大丈夫、私がついているよ、味方だよ」と優しい言葉をかけ励ます。
- 周りの人が「やめろよ。それはいじめだぞ。だめだよ」と止める。
- 見た人が、家族や先生に「○○さんが困っています。助けてあげたい」と伝え、相談する。
- いじめた人が反省をして、「ごめんね。もうしないよ」と謝る。

そうやって、辛い思いをしている友達を守ってあげるのです。あなたたちの中で、もし周りに「いじめ」で傷ついている友達がいたら、声をかけ、励まして、「いじめの矢」を抜いてください。もう一度、この心(りんご)を見てください。いじめの矢を抜いた後はどうなっていますか？ 傷跡が残っています。「いじめの矢」を取り除いても、「いじめの傷跡」は残るのです。

中々消えないのです。大人になっても一生、いじめにあったこの心の傷を忘れることができないかもしれません。だから、いじめは絶対になくさなければいけないのです。

子ども達は真剣に話を聴いてくれました。学年集会后、心痛な気持ちでいる友達に優しい言葉をかけて励ます仲間の姿がありました。どれだけ心救われたことでしょうか。南小には優しい子がいっぱいいます。

残念(; ; ω ;)ウゥゥ…未成年の主張、仲間と自分のきずなアピール発表会を見合わせ

インフルエンザの感染が収まり、日程が調整できれば実施したいと考えていますが、学期末に差し掛かり、時間を確保するのが困難な状況です。実施できる見通しがもてた際には、改めてお知らせいたします。

